

堤防DM補強工法 設計・施工マニュアル（案）の誤記について

令和4年12月に発行した「堤防DM補強工法 設計・施工マニュアル（案）」に誤記がありました。正誤表を下表に示します。ご購入頂きました方々に大変ご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

「堤防DM補強工法 設計・施工マニュアル（案）」の正誤表

ページ	行など	誤	正	備考
目次	—	3.5.5 変位量の照査	3.5.5 変位量 等 の照査	「等」を加筆
57	記号説明 6行目	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	記号を修正 (P を小文字に)
58	記号説明 11行目	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	記号を修正 (P を小文字に)
60	記号説明 1行目	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	記号を修正 (P を小文字に)
61	記号説明 21行目	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	P_w : 静水圧 (海水) (kN/m ²)	記号を修正 (P を小文字に)
64	タイトル 1行目	3.5.5 変位量の照査	3.5.5 変位量 等 の照査	「等」を加筆
64	本文 2行目	地震時に発生する改良地盤の変形量については、適切な手法を用いて検討するものとする。	改良地盤の変位量については、適切な手法を用いて検討するものとする。	「地震時に発生する」を削除 「変形量」を「変位量」に修正
65	本文1～ 4行目	② 改良地盤が着底型であっても支持層の下に粘性土層が介在する場合は、圧密沈下等による改良体の鉛直変位が懸念され、 <u>また改良体を含む堤防全体の透水性（吸出し、浸透、パイピング）についても考慮する必要があり、別途永続状態における変位量の検討が必要となる。</u>	② 改良地盤が着底型であっても支持層の下に粘性土層が介在する場合は、圧密沈下等による改良体の鉛直変位が懸念され、別途永続状態における変位量の検討が必要となる。	「また～必要があり、」を削除
65	本文 7行目	—	変位量に加えて、改良体を含む堤防全体の透水性（吸出し、浸透、パイピング）についても考慮する必要がある。	「変位量～必要がある。」を加筆
181	記号説明 13行目	⑥ 偏心距離 $e = (B/2) - d$ $= 9.00/2 - 1.91 = 2.59$ (m) $\leq B/6 = 1.50$ (m)	⑥ 偏心距離 $e = (B/2) - d$ $= 9.00/2 - 1.91 = 2.59$ (m) $> B/6 = 1.50$ (m)	記号を修正 ($< \rightarrow >$)